

チャペル週報

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。
その中で最も大いなるものは、愛である
(コリントの信徒への手紙一 13:13)



春季宗教運動特集号
2006 5.15 ~ 5.19 No.5
関西学院宗教センター

チャペル・スケジュール

時間 10:35 ~ 11:05 場所 各学部チャペル

5月15日(月) ランバスチャペルアワー 於、中央講堂
学生によるチャペル

5月16日(火) 西宮上ヶ原キャンパス大学合同チャペル 10:20 ~ 11:20
「自己放棄は自己実現への道」宮田満雄(元院長)

於 中央講堂

神戸三田キャンパス大学合同チャペル 10:20 ~ 11:20

「建学の精神とスクール・モットー」井上琢智(副学長・経済学部教授)

於 号館201号教室

5月17日(水) 西宮上ヶ原キャンパス大学合同チャペル 10:20 ~ 11:20
「建学の精神とスクール・モットー」井上琢智(副学長・経済学部教授)

於 中央講堂

神戸三田キャンパス大学合同チャペル 10:20 ~ 11:20

「あなたはどこにいるのか？」澄田 新(高等部長・宗教主事)

於 理工学部チャペル

5月18日(木) 上ヶ原キャンパス学部合同チャペル「宣教師によるEnglish Chapel」
"Food for thought" Christian M. Hermansen(宣教師)

於：中央講堂

総 オルガン・コンサート マーク・アンダーソン(ウェストミンスター音楽大学)

ランバス記念礼拝堂(神戸三田)

5月19日(金) 上ヶ原キャンパス学部合同チャペル
ビデオ「関西学院と聖書」

於 中央講堂

理 「新月と欠け多い私たち」松木真一(宗教主事)

ランバス早天祈祷会 午前8:20~8:40

於 ランバス記念礼拝堂

5月16日(火) 春季宗教運動のために

嶋 村 誠

5月17日(水) 春季宗教運動のために

永 田 雄次郎

5月19日(金) 商学部のために

梶 浦 昭 友

総合政策学部早天祈祷会 毎木曜日 午前8:40~

於 宗教主事室

大学キリスト教週間への招き

- あなたの若き日に -

嶋 村 誠

若いということはすばらしいことです。それゆえ実年齢を重ねた後も、誰もが若さだけは失いたくないと思います。人の若さとは何でしょうか。その要件には「ユーモアがあること」という一項が含まれているのかなと思います。ハワイの牧師さんから伺った話ですが、ある日系の方が99歳の誕生日を迎えられるというので白寿のお祝いにケーキを持って訪問されたところ、入れ歯をはずして召し上がられました。そこで牧師が、「ケーキを食べるときにははずすのだったら、そんな入れ歯はいらないでしょう」と尋ねますと、すかさずその方曰く、「いや、食事のときにはいらんのじゃが、歯を磨くときに入れ歯がいるんじゃ。」私も将来こんなユーモアのある、若々しい老人になりたいものだと思うのです。

また、若さとは「新しいことを受け止められる」ことでもあるように思います。キリスト教は自分にとって新しいものだという人も多いことでしょう。聖書に、「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ」（コヘレトの言葉12章1節）という一節があります。文字通り若い方々も、若さを失ってはおられないあなたも、大学キリスト教週間を機に各種プログラムを通してイエス様や神様に触れてみませんか。

イエス様とはどんなお方でしょうか。ラジオでこんな話が放送されていたそうです。ある酔っ払いが指定席券を持たないで新幹線の指定席にどっかと座ったというのです。そこで、「その席は困ります」と乗務員。すると、「金を払えばええのやる?」「では、どちらまで?」と乗務員が聞くとその酔っ払い曰く、「エチオピアまで。」あなただったらどう答えますか。その乗務員はこう答えたそうです。「そこには停まりません。」この酔っ払いと乗務員は、まるで私とイエス様の関係を写し出しているかのようです。酔っ払いは自分本位に考え、好き勝手にしようとする。一方、乗務員は、どんな乗客でもあくまで客として相手をし、いつも態度を変えることはありません。たとえ酔っ払いが「『停まりません』ってエチオピアまで行くんかい?」とつつこんでも、その人といつまでも対話する関係を続けようとし、イエス様とはそんなお方のように思えるのです。

(商学部助教授・宗教活動委員会委員長)

関西学院と私

宮 田 満 雄

私は1949年に関西学院高等部に入学し1956年に大学の文学部を卒業しました。父も明治時代の関学の卒業生でした。大学卒業後母校の高等部で英語を教え、一時空白期間がありますが後に大学で教えることになり関学では通算41年間教鞭をとりました。学生時代を含めると48年間、自分の人生の半分以上を関学でお世話になったことになりました。多くの大切なことを学びました。その中で一番大切なことは、『人生において何を最も大切なものとして考えるか』ということです。聖書に私達が若い時代には『富める青年』と言われた話がでてきます。(マタイ19:16-22、ルカ18:18-23)金持の青年がイエスに『永遠の生命を得るためには何をすれば良いでしょうか』と問います。イエスは『掟を守りなさい』と言われます。これは昔からユダヤにある戒律のことです。この青年は幼い時から掟を守ってきた模範的な人であったので『そういうことはみな守ってきました』と答えます。するとイエスは『あなたにはまだ一つ欠けているところがあります』と言われるのです。そして、『あなたの持っているものを全部売り払って貧しい人に分け与え、その上で私に従ってきなさい』と言われたのです。富める青年は悲しみながら立去ったとあります。豊かな生活を捨てることはこの青年にはできなかったのです。イエスは人間が金持ちであること自体は悪いことだと思っておられなかったかもしれませんが、この青年の場合彼の心を真に解放して救いに至るためには彼の富が邪魔をしていると思われたにちがいありません。ですから財産を全部手放すことが必要と思われたのでしょう。これと対照的なのはイエスの弟子になった4人の漁師の話です。(マタイ4:18-22)彼等

はイエスに出会って『私についてきなさい』と言われた時、すぐ網を捨てて従ったとあります。イエスとの出会いによって新しい目が開け瞬時に決断し人生の新しい次元に飛び込んだのです。これらの聖書の話は私達が何を大切なものとして考えなければならないかという視点の問題が人生において非常に大切だということを示しています。世の中には大切だと思われることが多くありますが、その中でも人間の生き方とか人間そのものに対する理解は最も基本的で大切なことです。しかもこのことはこれだけ医学を含めた科学技術が発達した時代にあって最も後れている分野であると言われていています。私達は相対的な世界に住んでいます。従って何が何より大切か、或いは、何は何より重要でないかという物の軽重を判断することが大切なことになります。教育を受けた者と受けなかった者との違いは何かと言えば、それは物の軽重に対する判断力だと言われます。これはそう簡単なことではありませんが、私が関西学院の教育を通して学んだ重要なことはこの点です。

関西学院の建学の精神はこの学院で学ぶ者達に知的、宗教的教養 (intellectual and religions culture) を身につけさせるということで、それをキリスト教的方針によって行うということです。このことは関西学院の生活全体の営みの中から私達が身につけていくべきものだと思っています。その意味で学科としてのキリスト教学に加えて日常のチャペルや春秋の宗教運動は重要な教育的プログラムです。皆さんが今後自分の母校がその教育を通して培おうとしている真の教養を身につけてそれぞれの人生を歩まれることを心から願っています。『教養のある人間は教育を受けた人間であるが教育を受けた人間がかならずしも教養のある人間とは限らない』という言葉は今の時代、心して聞くべき言葉だと思います。

(啓明学院院長・元関西学院院長)

建学の精神 - 建学の精神とスクール・モットー

井 上 琢 智

関西学院大学は、学則第1条にあるように「広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶することを目的」として建てられています。前段は学校教育法や教育基本法に謳われていますので、すべての大学に共通する目的です。ですから、本大学の教育の独自性は後段にありますから、それが本学の建学の精神だということです。それは、現在の神戸市王子公園の地に、関西学院が1889年に宣教師W・R・ランバス博士によって創立されて以来、変わることのない建学の精神です。

この建学の精神を具現化するのが校章やスクール・モットーです。北原白秋作詞で本学同窓の山田耕筰作曲の校歌「空の翼」にも登場する校章「新月(三日月)」は、太陽である神の光を常に受け、月である人間が自らを輝かせるものであると自覚し、新月がやがて満月へとつまり完全なる神をひたすら憧れ求め進歩・向上する姿を象徴するものです。

その校歌に登場し、入学以来しばしば耳にするスクール・モットー“Mastery for Service”は、高等学部長C・J・L・ベーツが1912年に提唱したものです。もっともこれ以前に関西学院にスクール・モットーがなかった訳ではありません。その一つが旧制中学部の「公明正大」です。これは、試験問題を配布し教師が教室を離れ監督しなくても、「学生は相戒め、俯仰天地に恥じざらん事を期した」当時の学生の理想の生き方を示したものとして知られ、同窓の永井柳太郎（早稲田大学教授で政治家）も揮毫したことばです。

この“Mastery for Service”は、時を経て関西学院全体のスクール・モットーとなり、今や関西学院につながるすべての人びとの指針となっています。ただ、注意しなければいけないのは、その自己献身・奉仕の対象が明示されていないことです。旧制大学学則では「国家社会」がその対象でしたが、今では明示されることなく、このモットーを唱える個人にその対象の選択が委ねられています。あなたは「誰」のために“Mastery for Service”するのですか。家族、友人、隣人、「国家社会」、国際社会、人類のため、ですか。

(副学長・経済学部教授)

あなたはどこにいるのか

澄 田 新

新入生の皆さん、関西学院は、キリスト教主義学校ですから、学校生活の中で、キリスト教の行事が沢山あります。春の宗教運動もその一つです。今日は、旧約聖書の有名な創世記3章のアダムとエバの物語から、一つの話をししましょう。

エデンの園で、楽しく生活していたアダムとエバのところに、誘惑者のヘビが、神様のような知恵を得るためには、園の中央にある木の実を食べるといいよ、とエバに教えます。エバは共に生きているアダムに教えます。二人は、その木の実は、神様から食べてはいけないと、教えられている木の実であることを知っていたのですが、自分の意志で食べることを決め、自分の手でとって食べてしまったのです。

すると、「二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした」（創世記3章7節）とあります。

アダムとエバは、目は見えていたのに、見えていなかったというのです。以前、テレビのコマーシャルに、「見てもわからんものは、聞いてもわからん」というコマーシャルがありました。私は、見ても、聞いても判らないのが、私の現実の姿であることを知っています。今、「目からウロコ」と言う言葉がよく使われていますが、「目からウロコ」の語源は、新約聖書から出ています。人類最初の「目からウロコ」は、このアダムとエバでした。

目が開けて見ると、むき出しの自分がいることに、二人は気がつきました。むき出しの自分、裸の自分とは、どういうことでしょうか。私たちの日常生活の中では、裸のつき合いとは、良い意味で使っていますが、この物語の「裸」とは、自分の野心とか、エゴがあからさまに出ている状態です。これではアダムとエバは、共に生きてはいけません。むき出しの部分を覆い隠すことによって、一応の平和はたもてるでしょう。

人間のエゴが、ストレートに出る部分、それは性ではないでしょうか。人間のエゴの象徴として、創世記の作者は、この物語で、「いちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした」と書いています。自分のエゴを裸のままにしていたら、この人の世で、私は、あなたは、他者と共に生きてはいけません。

私は、このアダムとエバの物語で、最もおもしろいと思うところは、8節で、二人は、「主なる神の顔を避けて、園の木の中に隠れた」ことです。顔を避けるとは、とんでもないところを二人は見ていたと言うことです。

ところで、新約聖書は、ギリシア語で書かれたのですが、ギリシア語で、「人間」のことを「アンスローポス」と言います。この「アンスローポス」と言うギリシア語は、二つのギリシア語から出来ていると言われています。一つは「アナ」（上に）、もう一つは「プロスオーポン」（顔）です。つまり、ギリシア人は、「人間」を「上に顔を向けた存在」と考えたようです。上とは、目標、理想、希望と考えていいでしょう。

ところが、実際の私は、アチコチに顔を向けて生きる存在です。目標を見失ったり、間違ったり、判らないで、顔を避けて下を向いて歩いているのが偽らない私の姿です。

その時、神様は、アダムにエバに、つまり私に、あなたに「あなたはどこにいるのか」と尋ねておられるのです。今、私は、あなたは、どこに立っているのでしょうか。

新しい関西学院の歩みの中で、上を向いて、目標や希望を持って、歩み出したいと願っています。

（高等部部長・宗教主事）

第168回ランバス演奏会

マーク・アンダーソン パイプオルガンコンサート

と き：5月16日(火)午後5時開演(4時半開場)

と ころ：ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

<入場無料>

Mark Andersonプロフィール

教会音楽のために創設された米国プリンストンのウェストミンスター・クワイア・カレッジを優秀な成績で卒業した「音楽聖職者」。イーストマン音楽学校で修士の学位を得、さらにインディアナ大学で指揮法とハープシコードの博士課程を修了した。現在フィラデルフィア市郊外チェスナットヒル長老教会のオルガニストならびに聖歌隊・ハンドベルクワイア指揮者。更に最近と同教会を拠点に新たにスタートしたペンシルバニア・ガール・クワイアの指揮者も務める。

ランバスチャペルヌーンコンサート

西宮上ヶ原キャンパスのランバス記念礼拝堂では、5月に入りますと学生音楽団体による恒例のチャペルヌーンコンサートが開かれます。お昼休みのひととき、どうぞ足を運んでみてください。

5月15日(月) 関西学院大学交響楽団(弦楽アンサンブル)

5月16日(火) 関西学院グリークラブ

5月18日(木) 関西学院大学混声合唱団エゴラド

5月22日(月) 関西学院大学交響楽団(管楽アンサンブル)

5月25日(木) 関西学院大学応援団総部吹奏楽部

6月12日(月) 関西学院大学ゴスペルクワイア "Power Of Voice"

6月13日(火) 関西学院バロックアンサンブル

6月15日(木) 関西学院聖歌隊

いずれも12時50分から13時20分までランバス記念礼拝堂にて

神戸三田キャンパスチャペルオルガニスト募集中

理工学部と総合政策学部の学生チャペル・オルガニストを募集しています。

リーフレット、募集要項、応募用紙は神戸三田キャンパス事務室(1号館キャンパス担当)にあります。詳細は、吉岡記念館事務室宗教センターでお尋ねください。(0798-54-6018)

また、募集要項、応募用紙は関西学院宗教センターからダウンロードできます。

http://www.kwansei.ac.jp/christian_center/

聖書の植物(2) ざくろ

吉岡記念館の周りに植えられている植物の2回目はざくろです。これはザクロ科の落葉灌木で、樹高3~5m、5月頃に開花し、花弁は6つ、赤色の筒状の萼があり、枝には普通とげがあります。果実は球状で、熟すと裂けて赤い種子が現れます。果実は新鮮なまま食用にしたり、菓子やワインにもし、果皮は乾かして薬用に使われました。また、花は赤い染料の原料ともされました。

聖書では、ざくろはエジプトの優れた果実のひとつに数えられ(民数記20:5)、モーセに遣わされてカナンを偵察した斥候はぶどう、いちじくと共にざくろを携えて帰り(民数記13:23)、カナンの産物に数えられ(申命記8:8)、イスラエルを祝福する7つの産物のひとつとされました。ざくろは多数の種子を持つことから肥沃や繁栄の象徴とされ、その理由からソロモンの神殿や大祭司の衣服の装飾とされました(列王記上7:42、出エジプト記28:34)。また、その赤い花は美しい女性を表現するのに用いられました(雅歌4:3)。

新約聖書にはざくろは言及されていませんが、イエスも出入りしたとされているカファルナウムのシナゴグ跡には、ざくろのレリーフが見つかっています。